兵 庫 県 の 地 震 活 動

2026 年（令和８年）10 月

震央分布図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

兵庫県で震度１以上を観測した地震一覧表・・・・・・・・２

兵庫県で震度１以上を観測した地震の震度分布図・・・・２

一口メモ

発震機構解：白黒模様でわかる断層の動き・・・・４

＊　「兵庫県の地震活動」は月１回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

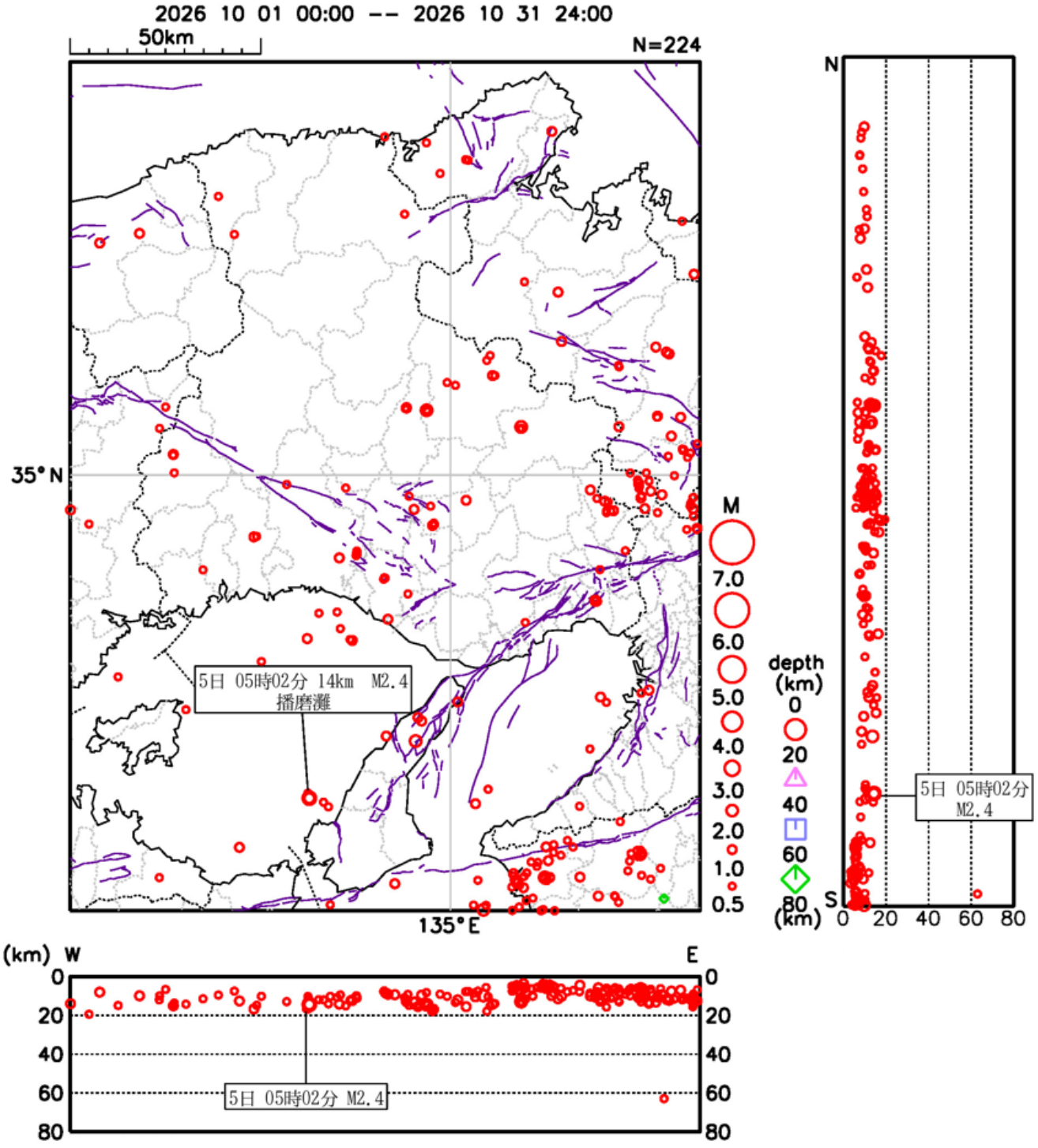
＊　この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

＊　本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

＊　また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神 戸 地 方 気 象 台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図　右上：東から見た断面図　左下：南から見た断面図
注）分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概　況

－－10 月の概況－－

今期間、兵庫県内では震度１以上の地震を２回観測しました。

５日 05 時 02 分　播磨灘の地震（深さ 14 km、M2.4）により、洲本市で震度１を観測しました。

13 日 20 時 44 分　徳島県南部の地震（深さ 38km、M3.9、前掲震央分布図範囲外）により、洲本市、南あわじ市で震度１を観測しました。

兵庫県で震度１以上を観測した地震一覧表

地震発生日時	震央地名	北緯	東経	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ	全国最大震度
各地の震度（兵庫県内）						
10 月 5 日　　05 時 02 分	播磨灘	34゜22.3'	134゜40.0'	14km	M2.4	震度 1
震度 1：洲本市五色町都志＊						
10 月 13 日　 20 時 44 分	徳島県南部	33゜49.3'	134゜43.5'	38km	M3.9	震度 2
震度 1：洲本市物部,南あわじ市福良						

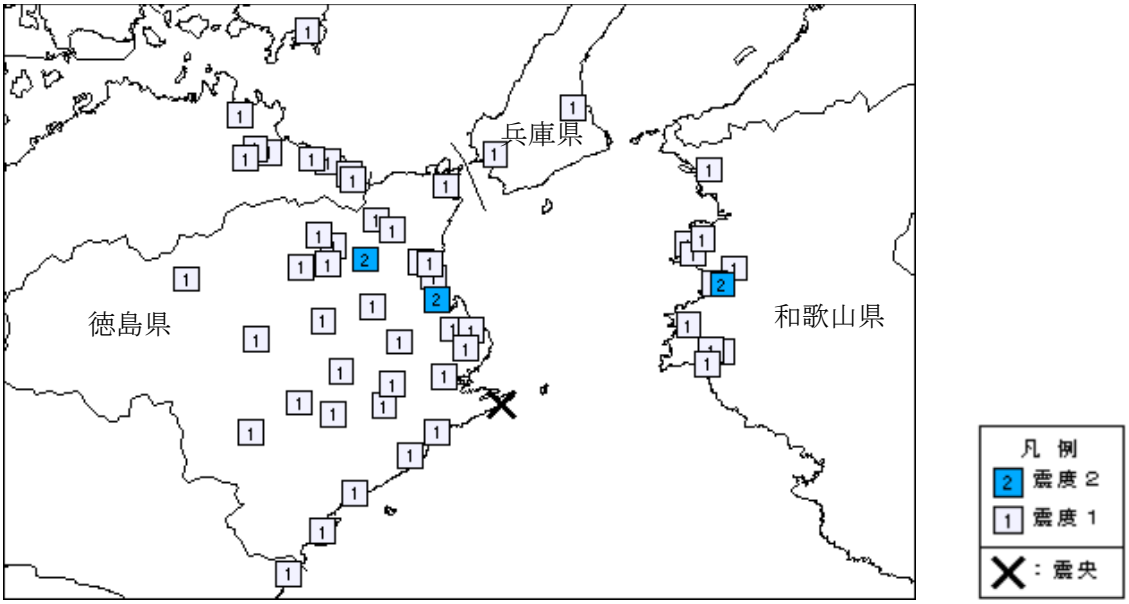
震源要素は、後日修正される場合があります。確定値は「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載されます。
なお、＊印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

兵庫県で震度１以上を観測した地震の震度分布図

10 月 5 日 05 時 02 分に発生した、播磨灘の地震の震度分布図（観測点震度）。



10 月 13 日 20 時 44 分に発生した、徳島県南部の地震の震度分布図（観測点震度）。



一口メモ　**発震機構解：白黒模様でわかる断層の動き**

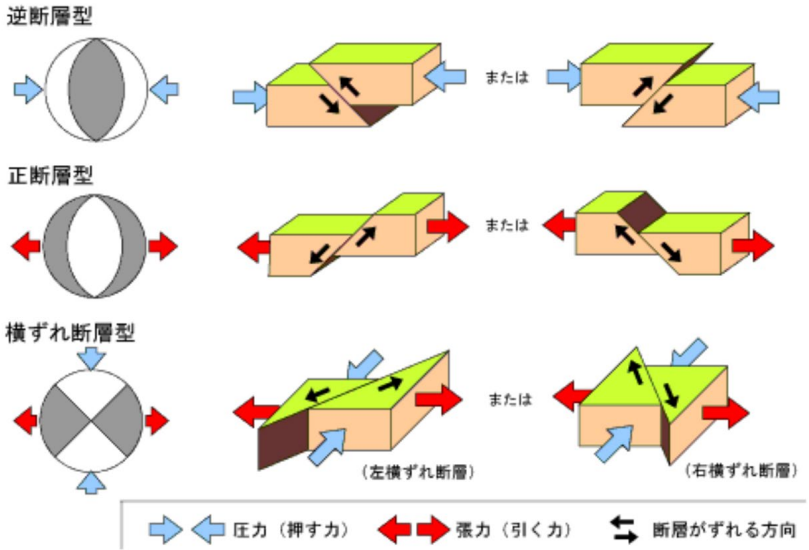
地震が発生したとき、地下では何が起きていたのでしょうか？
今回は「断層の動き」と「発震機構解」を見てみましょう。

★断層の動き方★

地震は、一般的には地下で断層がずれ動いて発生するものです。断層の動き方は、大きく三つの形に分けられます。一つ目は、断層面を境にして上盤（上側の岩盤）が下盤（下側の岩盤）に対してのし上がる“逆断層型”です。二つ目は、逆断層型とは逆にずり下がる“正断層型”です。三つ目は、断層面を境にして水平方向にずれる“横ずれ断層型”です。

★発震機構解★

”発震機構解”とは、地震を起こした断層が地下でどのようになっているか（断層がどちらの方向にのびているか、傾きはどうか）とその断層がどのように動いたかを示すもので、地下の断層の状態を表すと同時に、地下で地震を発生させた力がどのようであったかも教えてくれます。気象庁では、比較的大きな地震が発生した場合、職員による解析やコンピューターによる自動計算で発震機構解を求め、図１（左側）のような“震源球（しんげんきゅう）” と呼ばれる「断層面」と「放射される地震波の特性（地震波初動の向き）」を球で表現したものを使って断層の動き方を表現します（見え方のイメージは図２～４参照）。求めた発震機構解は、気象庁作成の報道発表資料などに掲載し、気象庁ホームページ等で公開します。



※発震機構解からは「異なる２つの断層面」を求めることはできますが、図１の「断層の動き」で示している２通りの断層面のうち、どちらが実際の断層であるかは特定できません。
断層面がどちらなのかを知るためには、余震の分布や地殻変動等の調査が必要となります。

図１　発震機構解（左側）と働く力の向き、断層の動き（中央と右側）

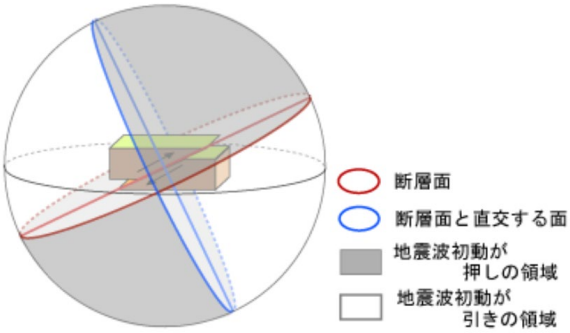


図２　逆断層と震源球のイメージ図
（図１で示したように、◯　が断層面の場合もある）

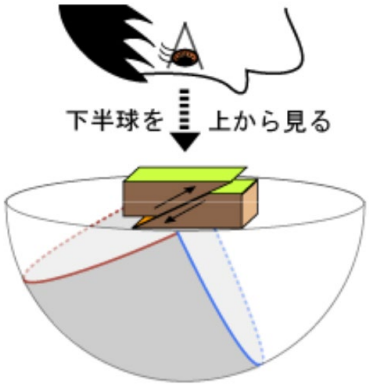


図３　図２の球の下半分を上から見る

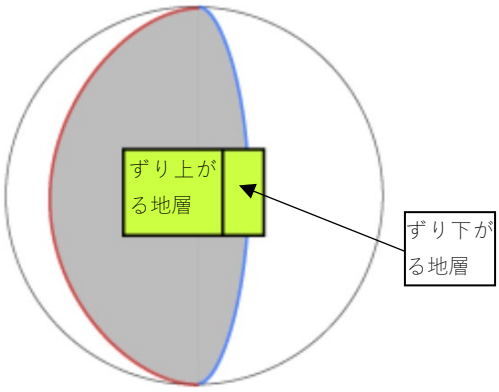


図４　図３のように真上から見たときの見え方

▶ 気象庁ホームページ「地震・津波・火山を知る」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/svd/text/chapter_2.html

▶ 気象庁ホームページ「発震機構解（精査後）」
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/mech/index.html

▶ 気象庁ホームページ「発震機構解とは何か」
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/mech/kaisetu/mechkaisetu.html

▶ 気象庁ホームページ「発震機構解の図（震源球）と断層面の関係（逆断層の場合）」
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/mech/kaisetu/model_gyaku.html